

神よ、あなたは、我らを試みられた。…  
我らは火の中、水の中を通ったが、  
あなたは我らを導き出して  
豊かなところに置かれた。 (詩篇66の10-11より)

God, you have put us to the test. …  
We went through fire and water, but you brought us to a place of abundance.

神を信じる民は、歴史の中で数々の試練、困難に直面した。神に選ばれたということは、安楽を意味していない。かえってさまざまな苦しみや死の危険にも遭遇することになった。エジプトによる長い迫害や、砂漠地帯での数十年にわたるしばしば死と隣り合わせたような生活、その後によりやく神の約束の地にたどりついた後も、みずからの罪深さによってさまざまな外敵による攻撃を受けて、ついに国は滅ぼされ、多くの民は国外に逃れ、あるいは捕囚となって遠くの国へと連行された。半世紀にわたる異国での困難な生活を終えて、ようやく祖国に帰ることができた者たちも、そこではまた新たな試練が待っていた。

こうした聖書にある民の歩みはそのまま、現在に至るまでの神を信じる者たちの歩みとも重なる。

火の中、水の中とはそのようなさまざまな出来事を象徴的に表している。神を信じる人たちは、聖書の時代からその後、今日に至るまで、世界の各地において、予想もしなかったような事態—迫害や投獄、追放等々に直面してきたことが現実に生じてきた。そして、それは個人においても、信仰ゆえに苦しめられ、生活や家庭を奪われて困難に陥った人たち、さらに、自分の罪、病気、事故、災害等々、“火で焼かれる”ような苦しみや痛みを感じてきた人たちも数知れない。

この詩の作者は、そうした苦しみを神からの試練として受けとったが、そのような困難の中でも神への信頼をあくまで失わなかった者は、必ず最終的にはこの詩で言われているように—この詩の作者がじっさいに体験したゆえに記されている—そこから神は導き出し、豊かな、広やかなところに置いてくださる。

この「豊かな所」と訳された原語は、あふれるほどにする、という意味もあり、、「主は、私に敵対する者の前であっても、神の賜物を与え、私の杯をあふれさせてくださる」(詩23の5)と訳されている。また、イザヤ書のギリシャ語訳聖書では、「豊かな所」という言葉は、魂をリフレッシュさせるという意味の語(\*)に訳されている。

(\*) ここでは、「神は導いて、アナブシュケー に至らせてくださる。」と訳されているが、この語は強調を意味する接頭語アンと、魂を意味する ブシュケー からなる。これは、refreshing . recovery などを意味する。

「人生の海の嵐に」という賛美がある。それはこの世に生きるときには荒海に呑み込まれるような危険、困難にも出会うが、それをとおって、静かな港—神、キリストのもとへと導かれるという内容である。それはこの詩で記されていることと共通のものを持っている。

主イエスご自身、迫害を受け、十字架という「火の中、水の中」というべき苦難を経て御国へと帰られた。主を信じる私たちも、この地上で、どのような困難があろうとも、最終的には完全な豊かさの満ちた天の国へと導いてくださるのを信じることができる。



リンドウといえば、大多数の人々は秋を思いだすと思われま  
す。じっさい、リンドウが取り  
上げられるのは秋と結びついた  
状況においてであることがほと  
んどです。

宮沢 賢治の作品にも、秋のイ  
メージのなかで現れます。これ  
は彼の心にもリンドウの深い青  
紫の花が刻まれていたのを示し  
ています。

…「ああ、りんどうの花が咲い  
ている。もうすっかり秋だねえ。」  
カムパネルラが、窓の外を指さ  
して云いました。

線路のへりになったみじかい  
芝草の中に、月長石でも刻ま  
れたような、すばらしい紫のり  
んどうの花が咲いていました。  
…（「銀河鉄道の夜」 六 銀河ステー  
ション）

私自身が最も心に残っている  
リンドウは、昔、学生時代に京  
都北部の鞍馬から出発し、北山、  
丹波高原の山々を幾日もかかっ

て越えて、福井県の日本海側まで歩いたとき、その山中一由良川の源流地帯で見いだ  
したリンドウでした。

リンドウには10数種類あり、その中に春に咲くものは、このハルリンドウ、フデリン  
ドウなどで、いずれも4～5月に野山で見られます。この写真は、三重県の愛農高校で、  
イースター礼拝での聖書の話をしていただいたあと、帰途の途中で立ち寄ったとこ  
ろに咲いていたものです。秋に咲くリンドウとちがって草丈は低く10センチ程度で、  
可憐な花ですが、春を告げ、新しい命のフレッシュな喜びがあふれています。

大地からこのような美しい色合いの花が生み出される—そこに神の大いなる御手のほ  
たらきを感じます。青い色は広がる大空や大海原の水の色でもあり、神の深みを感じ  
させてくれる色です。（文・写真ともT. YOSHIMURA）